



整備を進めてきた「東日本大震災津波伝承館」が令和元年9月にオープンし、令和2年3月には「東日本大震災津波からの復興一岩手からの提言一」を発行されました。

## (2) 宮城県の実組みについて

宮城県では、名取市に「名取市震災復興伝承館」をオープンし、それまで「地理的に名取には津波が来ない」とされていながら、市民923名の尊い命が奪われた「東日本大震災の記憶と教訓」を未来へ伝え続ける活動を行っています。

また、今後の減災防災のため、その時の要望に合わせた講話やワークショップも開催していく予定とのことです。

あわせて名取市には「震災メモリアル公園」も設置されています。

## (3) 福島県の実組みについて

福島県では、双葉町に「東日本大震災・原子力災害伝承館」を開館し、これまで国内で経験したことのない甚大かつ複合的な災害の記録と記憶を風化させることのないよう次世代へ継承する取組みを行っています。

津波や原子力災害の被災状況、その後の復興過程などを展示し、防災・減災の教訓とすることも目指しています。

## 2. 東日本大震災の教訓による津波避難タワー

東日本大震災では未曾有の津波被害によって、犠牲者の9割が津波が原因で亡くなることとなりました。

これを教訓にして、被災地を中心に、緊急的に津波から避難するための「津波避難タワー」が45基設置されました。

その後、南海トラフ地震による津波への対策も加わり、全国的に「津波避難タワー」が設置されていき、現在は全国に427基となっています。

各地の異なる事情と工夫によって多種多様なものとなり、避難タワー内に防災倉庫を設置したもの、防災資料館を併設したもの、数日間は滞在できるもの、平常時には横断歩道として使用できるものなどもあります。

高知県黒潮町には、南海トラフ巨大地震発生時に津波高最大18mが想定されているため、避難フロアの高さが22m、収容人数230名という日本最大級の避難タワーがあります。

## 3. 最後に

震災後10年が経過し、復興事業は「ハード整備」から「持続可能な地域づくり」という新たな段階に移ります。

同時に、昨年からの「新型コロナウイルスの感染拡大」による景気悪化等、人々の生活への影響が大きくなり、経済活動との両立をどう図るかという課題も突きつけられています。





- 第1位 2月13日 福島県沖で最大震度6強の地震  
<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/4002051039827549/>
- 第2位 2月15日 和歌山県北部で最大震度4の地震  
<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/4006324852733501/>
- 第3位 2月23日 伊予灘で最大震度3の地震  
<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/4026747684024551/>

♪見守りケロタンからのお知らせ♪

◆SignalNow X (無償版) ダウンロードサービス実施中!!  
<http://www.estrat.co.jp/signalnowx.html>  
<https://forest.watch.impress.co.jp/library/software/signalnowx/>



◆新津波電文対応 SignalNow Lite、販売中!!  
気象庁の新津波電文に対応し、津波警報・注意報も通報することができます。  
「高度利用者向け緊急地震速報(予報)」を利用した通報システムです。  
<http://www.estrat.co.jp/sn-lite.html>

発行元

ストラテジー株式会社  
〒182-0023 東京都調布市染地 2-14-50  
SignalNow シリーズの開発・配信事業を行っています。  
緊急地震速報 地震動の予報業務の許可事業者 許可第198号  
<http://www.estrat.co.jp/>

編集

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7  
<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>